

# 南海電鉄等による戦前期の橋本関連資料について

## About the Hasimoto-related data of the pre-world war 2 period by the Nankai electric railway and the like

平山 育男  
Ikuro Hirayama

The data of the pre-world war 2 period by the Nankai electric railway and the like was procured. With this manuscript decision of these issue ages it did. The data being free, is the pamphlets which are distributed, but from only these there is also a fact which cannot know, future application is expected.

Keywords : pamphlet  
パンフレット

### 1 はじめに

筆者らは平成11(1999)年以来、和歌山県橋本市橋本駅前の中心市街地における町と町家の調査研究を行って来た。その一環として戦前期、南海電鉄等の発行による橋本関連のパンフレット類を入手したが、発行年代が明らかでないものが目立った。そこで本稿では資料の概要を紹介して発行年代等を明らかにするとともに、その価値に言及する。

### 2 資料とその発行年代

以下では発行年代の明らかでない19種類の資料について、体裁、内容を述べた上で、発行年代の考察を加える。なお、論述の順序は考察より判明した発行年代順とし、旧字体は新表記に改めた。

#### 1) 高野山参詣案内／常喜院／大正4～9(1915～20)年の大正時代中期

【**体裁**】縦170mm×横257mmの三ツ折り。表面は黒、赤、藤色の3色刷。裏面は黒、赤、橙色、黄緑色の4色刷。なお、表面の右側2/3は改正された電車時刻が上貼される。

【**内容**】表面左1/3が表紙で堂宇と写真2葉、「高野山／(「」内／は改行を示す。以下同様。)参詣案内」と左上に縦書きされ、下部に「常喜院電話高野十四番」と右から横書きされる。右側2/3に「高野電車線(主要駅)和歌山線連絡時刻表」。裏面は全面に「高野山平面略図」(右書)と大阪高野電車線と省線の略図が描かれる。

【**発行年代**】以後にも共通するが、資料に記される現南海高野線、現JR紀勢本線の敷設状態が、発行年代の考察に有効である。当資

料では現高野線が橋本まで開通しているので大正4(1915)年3月11日が発行年代の上限となる。また、裏面の高野山平面略図には後のパンフ類には必ず明記される大正9(1920)年9月30日竣工の霊宝館の記述がないため、これを下限とすれば本資料は大正4(1915)年から大正9(1920)年の大正時代中期における発行と判断できる。

#### 2) 南海電車賃金・時刻表／南海鉄道／昭和3(1928)年頃

【**体裁**】縦177mm×横190mmの厚紙を二ツ折の表紙にして3枚の横長紙を折り込む。3枚はいずれも縦172mm×横344mmで、黒と朱の2色刷で四ツ折。

【**内容**】表紙1頁は天然色の扉絵で、近景に紅葉と大木、遠景に五重塔と2字の建物、背景に山々を描く。左側に縦書2行で「南海電車／賃金・時刻表」と記し、左下に横書き3行で、右から横書きで「大阪市南区難波／南海鉄道株式会社運輸課／電話戎四一<sup>ニ</sup>至四八番」とする。表紙2頁は黒と朱の2色刷で、「全線電車運転隔離」と左書きされ、右より本線、阪界線、上町線、平野線、天王寺線、高師浜線の運転間隔が記される。また、この下部に「新聞電車」の運転時刻表があり、最下段に「大阪弘英舎印刷所納」と左書きされる。表紙3頁は黒と朱の2色刷で「軌道線賃金表」、表紙4頁は群青、茶色の2色刷で「南海電車線路略図」が凡例とともに掲載される。

折込第1紙表は「難波＝和歌山市間特別急行、急行、直通電車時刻並に他線連絡時刻表(下り)」、裏面は上りとする。なお、難波～和歌山市間は当時、特急で1時間15分(現行56分)、急行で1時間35分(現行63分)、各駅停車の普通で2時間を要した。折込第2紙表は「難波及汐見橋＝高野下間時刻並に高野山電鉄・鉄道省和歌山線連絡時刻表(下り高野下・三門市町行)」、裏面は上りとする。折込第3紙表は並等片道賃金表(本線、高野線)、本線区間表、他線連絡切符、洲本行連絡摂陽商船の5表と備考、裏面は本線定期賃金表、高野線定期特定賃金表、高野線定期賃金表、高野線特設一年定期賃金表、本線回数乗車券、御団体割引表が掲げられる。

【**発行年代**】現高野線はこの時点で昭和3(1928)年6月18日開業の神谷までの開通となる。極楽橋までの延伸は昭和4(1929)年2月21日のため、これが本資料発行下限の1つと言える。一方、裏表紙「南海電車線路略図」における現紀勢本線は昭和2(1927)年8月14日開業の紀伊湯浅までの開通に留まる。同線は翌年10月28日に紀伊由良、昭和4(1929)年4月21日に御坊まで延伸された。つまり同図から本資料の発行は昭和2(1927)年8月14日から翌年10月28日の間に絞り込むことができる。

但し、湯浅以遠への延伸は折込第1紙に省線の連絡として和歌山市～紀伊由良間紀勢線の列車時刻が掲載され、第3紙表「他線連絡切符」の欄にも「難波より」「省線」「紀伊由良行」とあり、本資料の発行時点で既に紀伊由良まで開通していたとするのが妥当である。

以上をまとめると、本資料の発行時期は昭和3(1928)年10月28日から翌年2月21日の間となる。ところで更にこれを絞り込む要素として、表紙の扉絵を挙げることができる。ここには紅葉の山寺が描かれ、季節は秋と考えることができる。つまり、このような絵を表紙に掲げることから、本資料の発行は昭和3(1928)年秋とするのが妥当である。

なお、このように資料内では厳密性を欠き、矛盾する表記の含まれることもあるため、総合的な判断が必要となる。

#### 3) 楠公遺蹟めぐり／南海電車／昭和4(1929)年頃

【**体裁**】縦155mm×横348mmの四ツ折り。表面は黒、朱、紫、金の4色刷。裏面は黒、朱の2色刷。

【**内容**】表面左右1/4にモノクロ写真各3枚、左から2/4が表紙で左側に「楠公遺蹟めぐり 南海電車」と縦書きされ、隣面にかけて甲冑等が描かれ、3/4に「南海沿線案内略図」「楠公遺蹟めぐり」が挙げられる。裏面上段に「楠公遺蹟を訪ねて」、下段に「長野附近遊

覧案内(年中行事)」、沿線略図があり、左下に「中安製版印刷所印行」とある。

【発行年代】表面「南海沿線案内略図」で現高野線は極楽橋までの開業であるが昭和5(1930)年6月29日開通のケーブルは未通である。また、同図で現紀勢本線は御坊までの開通が認められる。これらを総合すると、発行日は昭和4(1929)年2月21日から4月21日に限定されるため、昭和4(1929)年春の発行と考えるのが妥当と言える。

#### 4) 高野山案内／南海電車／昭和5(1930)年前半

【体裁】縦163mm×横351mmの四ツ折り。表面は黒、緑、水色、紫、鼠色、肌色の6色刷。裏面は黒、朱の2色刷。

【内容】表面両脇1/4が写真で各10枚のモノクロ写真を配し、左から2列目の2/4が表紙で大門と山々、木立を描き、左上に水色の縦書きでタイトルの「高野山案内」、下部に右からの横書きで「南海電車」とする。3列目の3/4には「南海沿線案内略図」、脇の罫線内に主要区間の所要時間が記される。

裏面上段は右より「高野山に就いて」、「高野山の概況」、「御参詣順路」、「高野山年中行事」、下段には「高野山御参詣案内図」、「高野山里程表」が配される。なお左下に「大阪三協精版印刷所印行」と記される。

【発行年代】裏面「高野山御参詣案内図」のケーブル部分に「(七月完成予定)」とあり、ケーブル完成の昭和5(1930)年前半期が下限となる。なお、裏面「高野山年中行事」5月に「六日(火曜) 立里荒神大祭」とあるが、ケーブル完成以前の近い年代で5月6日が火曜となるのは大正13(1924)年と昭和5(1930)年に限られるので、本資料の発行は昭和5(1930)年前半期とできる。

#### 5) 高野山案内／南海電車／昭和5(1930)年7～10月

【体裁】縦164mm×横348mmの四ツ折り。表面は黒、群青、藤色、紫、鼠色、肌色の6色刷。裏面は黒、朱の2色刷。

【内容】内容的には前項とほぼ同じであるが、配色が異なる。表紙文字は藤色。また、裏面「高野山御参詣案内図」における極楽橋～高野山間のケーブルが開通している。

【発行年代】ケーブルが開通し、往復割引が「昭和五年十月末日迄」とあるため昭和5(1930)年7～10月の印刷と考えられる。

#### 6) 天下の霊場高野山／南海電車／昭和5(1930)年後半

【体裁】縦154mm×横353mmの四ツ折り。表面は黒、青、朱、紫、肌色の5色刷。裏面は黒、朱の2色刷。

【内容】表面両脇1/4が写真で各3枚のモノクロ写真を配し、左から2列目の2/4が表紙で多宝塔と木立を描き、左上に朱色の縦書きでタイトルの「天下の霊場／高野山」、下部に右からの横書きで「南海電車」の文字が入る。左から3列目の3/4には「南海沿線案内略図」、その脇の罫線内に主要区間の所要時間などが記される。

裏面上段に右より「高野山に就いて」、「高野山の概況」、「御参詣順路」、「高野山年中行事」、下段に「高野山御参詣案内図」、「高野山里程表」が記される。

【発行年代】高野山のケーブル開通、現紀勢本線における御坊までの開通は前項等と同じである。後には見られない「ケーブル開通」の文句があるものの、前項にあった昭和5(1930)年10月までの往復割引の記載がないことから、同期以後の印刷と考えられる。

#### 7) 高野山避暑案内／日本トラベル経済会／昭和6(1931)年初夏

【体裁】縦143mm×横182mmを二ツ折り。表裏とも青の単色刷。

【内容】1頁目が表紙で枠内にタイトルの「高野山避暑案内」を縦書きとする。2頁目に「高野山の魅力!」と題して9行の文章があり、3頁目に「高野山避暑滞在料金」、4頁目に日本トラベル経済会の会社名と住所、電話番号が記載される。

【発行年代】3頁目「高野山避暑滞在料金」但書に“難波駅・湊町駅ヨリ高野電鉄連絡乗車高野山上ケーブル終点駅迄往復料金ヲ含ム”と記載される。ケーブル開通が昭和5(1930)年7月でこれが上限となるが、当初5月に予定された開通が7月に延びたことなどから、同年の発行は考えづらい。また、“高野電鉄連絡乗車”の点に注意すると、南海と高野電鉄の直通運転は昭和7(1932)年4月であるため、これが下限となるが、避暑案内のため、同年の発行は考えられない。これらを総合すると、当資料は昭和6(1931)年初夏の発行とすることができる。

#### 8) 高野山スキー場／南海電車／昭和5・6(1930・31)年末

【体裁】縦155mm×横176mmの二ツ折り。表面は黒、朱、青の3色刷。裏面は黒、赤の2色刷。

【内容】1頁目は表紙で、樹木とスキーヤーの図柄を背景に右から縦書きで「山岳で／ゲレンデスキーに適した／高野山／スキー場」「難波より／往復 スキー割引券 二円五十銭／(一月元旦より二月末迄)」、下部に右からの横書きで「南海電車」との文字が配される。2、3頁目はスキー場の説明で、「大阪より最も近い／＝約二時間半＝／大阪より最も便利な 高野山スキー場／四万坪の／理想的なスキー場」として概要、「順路」「高野スキー場の特徴」「積雪量」「ヒュツテ」「御問合」先が記される。4頁目は「高野スキー場案内略図」とする。

【発行年代】裏面2頁目の「順路」に“難波(南海高野線)一高野下(高野山電車に乗換)一極楽橋(ケーブルに乗換)一高野山”とあり、上限はケーブル開通の昭和5(1930)年6月、下限は電車が直通運転となる昭和7(1932)年4月となる。但し、表紙に割引券は「一月元旦より二月末迄」とあり、昭和5、6(1930、31)年末の発行とするのが妥当である。

#### 9) 春は高野山へ／高野山電車／昭和6(1929)年春

【体裁】縦155mm×横262mmの三ツ折り。表面は黒、黄緑、桃色の3色刷。裏面は黒の単色刷。

【内容】表面左1/3が表紙で、桜の咲いた高野山とケーブルを背景に、上部左からの横書きで「春は高野山へ」の表題、左側に縦書きで「賃金大値下」、下部に本社及び営業課の住所、電話番号、表面残りに「高野山御参詣案内図」「山上里程」が記される。裏面は右より2段表組の「高野山案内」、横書きの「高野山恒例法会」、以下いずれも表組の「高野山参詣時刻表」、「御団体割引率」、「普通旅客運賃」が掲載される。

【発行年代】表面「高野山御参詣案内図」によると、既にケーブルは開通している。また、裏面「高野山参詣時刻表」の電車時刻は昭和5(1930)年9月改定のもので、難波～高野下直通の電車運転本数を冬季22本とするのは翌年までに限られる。但し、表題を「春は高野山へ」とする点を考慮すれば、発行は昭和6(1931)年春と判断できる。

#### 10) 楠公遺蹟めぐり／南海電車／昭和6(1929)年春

【体裁】縦155mm×横348mmの四ツ折り。表面は黒、朱、紫、金の4色刷。裏面は黒、朱の2色刷。体裁は前述同名資料と同一。

【内容】内容も前述した同名資料とほぼ同一であるが表面「南海沿線案内略図」に後述するような差異があり、印刷所の記載がない。

【発行年代】「南海沿線案内略図」で昭和5(1930)年6月開通のケーブルの記載があり、現紀勢本線は同年12月開設の印南までの開通が認められる。以遠の南部までの開通は翌昭和6(1931)年9月である。また、同年3月21日営業開始のバス住吉線が描かれるが、同年7月10日開設で、後の資料には多く見られる高師浜臨海学舎は記されない。以上より、発行日は昭和6(1931)年3月21日から同年7月10日に限定されるため、昭和6(1929)年春の発行とするのが妥当。



#### 11) 秋／南海電車／昭和6(1931) 年秋

【**体裁**】縦155mm×横520mmの六ツ折り。表面は青、朱、紫、黄色の4色刷。裏面は青、朱の2色刷。

【**内容**】表面左から1／6が表紙で、右上に「秋」、右下に「南海電車」と右書され、左小脇に袍を持つ女性、月、寺の遠景が描かれる。2／6は「南海沿線案内略図」「団体割引表(9月～12月・1月～2月)」、3／6は「宴会場」と写真2葉、4／6には「白浜湯崎温泉めぐり」「瀨八丁」「鳴門観潮」「阿波小松島より洲本廻鳴門観潮」、5／6には写真3葉、6／6には「松茸狩」「紅葉狩」「小島住吉、加太めぐり」が記される。

裏面は「魚つり」を含み10項目の紹介と写真9葉が掲載される。  
【**発行年代**】表面「南海沿線案内略図」で現紀勢本線が昭和6(1931)年9月21日に開設された南部駅までの開通に留まる。以遠への延伸は昭和7(1932)年11月である。また、現南海高野線が高野下で乗換の表記を持つ。同線の直通運転は昭和7(1932)年4月となるが、本資料の題名が「秋」である点を考慮すると、印刷は昭和6(1931)年初秋とするのが妥当であろう。

#### 12) 春の南海／南海電車／昭和7(1932) 年春

【**体裁**】縦178mm×横763mmの八ツ折り。表面は黒、赤、青、黄、水色の5色黒刷。裏面は黒、赤の2色刷。

【**内容**】表面は左から1／8が表紙で、左中央に「春の／南海」と縦書きされ、扉絵には桜と山、伽藍、近景の草が描かれ、草の部分に白ヌキで右からの横書きで「南海電車」の文字が入る。2／8は裏表紙で、「南海沿線案内略図」、3／8以後は紀三井寺以下24ヶ所に及ぶ桜の名所等をモノクロ写真で示す。

裏側は右側から1／8から4／8は「春の大運動会」「安くて便利な春の宴遊券、遊覧券」。5／8以後は「娯楽と健康のパラダイス／大浜潮湯と少女歌劇」以下、8コースの遊覧などのコースと「南海電車御団体割引率表」「宴会場」「お問合せは」が記される。

【**発行年代**】表面の「南海沿線案内略図」で、現紀勢本線は昭和6(1931)年9月21日開設の南部駅までの開通に留まる。そのためこの資料の発行は昭和6(1931)年9月以後、現高野線直通運転開始の昭和7(1932)年4月以前となるが、題名に「春の南海」とあることから昭和6(1931)年初春とすべきであろう。

#### 13) 南海電車附高野山電車旅客運賃表／南海電車／昭和7(1932) 年前半

【**体裁**】縦147mm×横630mmの八ツ折り表裏とも黒の単色刷。

【**内容**】表面右から1／8が表紙で列車線路、列車4両、架線支柱が描かれる。そして、左上に横書き2行で「南海電車 附高野山電車／旅客運賃表」と記され、左下には棒線も含め左からの横書き4行で「詳細御問合せは／難波案内所へ／―――／電戎四三番四四番」と記される。残りの7／8に運賃等が記され、右から順に、「難波より各駅への各種旅客運賃表」「定期回数乗車券運賃表」「各駅間片道運賃表」を掲載する。

裏面は右から「南海鉄道直営バス」「営業料程表」「軌道線営業料程表」「南海電車御団体割引率表」「高野山電車」として普通旅客運賃表、営業料程表、定期・回数乗車券運賃表として普通定期乗車券運賃と学生定期乗車券運賃、十六回回数乗車券運賃表とする。

【**発行年代**】既にケーブルも高野山まで開通し、昭和5(1930)年6月29日以後と言える。一方、本資料にはバス路線も掲載されるので、この点からも絞り込みができる。「南海鉄道直営バス」表中の信太～葛葉の路線は昭和7(1932)年3月20日営業開始であるのでこれを印刷時期の上限とすることができる。また、表面「難波より南海直営バス及他線連絡切符」欄では現紀勢本線による連絡切符は南部までの発売になっている。南部駅は昭和6(1931)年6月21日の開通で、以南への開通は翌昭和7(1932)年11月8日である。以上より、

本資料は昭和7(1932)年3月20日から同年11月8日の印刷とできるが、同年4月28日に高野線の直通運転があり、これにあわせた運賃の告知として同年春の印刷と考えるのが妥当であろう。

#### 14) 紀三井寺 新和歌浦／南海電車／昭和7(1932) 年

【**体裁**】縦155mm×横347mmの四ツ折り。表面は黒、朱、藤色、緑、黄色の5色刷。裏面は黒、赤の2色刷。

【**内容**】表面両脇1／4が写真で各3枚、合計6枚のモノクロ写真を配する。左から2列目の2／4が表紙で、左上に根来寺、右下に新和歌浦の景が描かれ、右上にタイトルの「紀三井寺」が縦書き、中央に「南海電車」と右書き、左下に「新和歌浦」の文字が縦書きで入る。左から3列目の3／4には「南海沿線案内略図」が記され、欄外に「大阪 森川印刷所印行 東京」と記される。

裏面は右より「新和歌浦、紀三井寺めぐり」、「新和歌浦・紀三井寺・南紀関係略図」。

【**発行年代**】表面の「南海沿線案内略図」で、既に現南海高野線は極楽橋までの乗り入れており、上限は昭和7(1932)年4月28日となる。また、現紀勢本線は昭和6(1931)年9月開設の南部駅までに留まる。以南への延伸は昭和7(1932)年11月であるので、これを下限とすれば、当資料の印刷は昭和7(1932)年4月から11月の間と判断できる。

#### 15) 小嶋住吉－加太巡り／南海電車／昭和7(1932) 年前半

【**体裁**】縦156mm×横346mmの四ツ折り。表面は黒、朱、紫、黄色の4色刷。裏面は黒、赤の2色刷。

【**内容**】表面左から1／4にはモノクロ写真で2枚を配する。左から2列目の2／4が表紙で、上部にタイトル「小嶋住吉－加太巡り／加太宴遊券／南海電車」と右から横書きし、巖に波が当たる景が描かれる。左から3列目の3／4には「南海沿線案内略図」、4／4には「小嶋住吉・加太附近案内略図」として昭和4(1929)年6月17日、由良要塞司令部許可済1／20万の地図が配される。

裏面は右より「小嶋、住吉加太めぐり」、「加太宴遊券」が記される。

【**発行年代**】表面の「南海沿線案内略図」で、現南海高野線は極楽橋まで直通運転、現紀勢本線は南部駅までの開通に留まるため、前項と同様に昭和7(1932)年4月から11月の印刷と一応判断できるが、裏面で宴遊券などが「十一月末日迄」とあるため、同年の早い時期とするべきであろう。

#### 16) 天下之霊場高野山／南海電車／昭和7(1932) 年

【**体裁**】縦153mm×横353mmの四ツ折り。表面は群青、朱、水色、緑、黄色の5色刷。裏面は黒、赤の2色刷。

【**内容**】表面両脇1／4が写真で各3枚、合計6枚のモノクロ写真を配し、右端頁に運賃、距離、所要時間の表が配される。左から2列目の2／4が表紙で、高野山の山並、伽藍と電車・ケーブルの線路を模式的に描き、左上にタイトルの「天下乃霊場／高野山」、右下に「京阪神ヨリ衆ニ／日帰りガ出来マス／南海電車」の文字が入る。左から3列目の3／4には「南海沿線案内略図」が記される。

裏面上段に右より「高野山に就いて」、「高野山の概況(高野町)」、「御参拝順路」、「高野山年中行事」、下段に「高野山御参詣案内図」、「高野山里程表」が記される。

【**発行年代**】「御参拝順路」「極楽橋」の項目に「難波より電車は極楽橋迄直通」とあり、表面の「南海沿線案内略図」における現紀勢本線の開通が南部駅までに留まるため、本資料も前項と同じく昭和7(1932)年4月から11月の印刷と判断できる。

#### 17) 天下之霊場高野山／南海電車／昭和7(1932) 年

【**体裁**】縦152mm×横349mmの四ツ折り。表面は群青、朱、水色、緑、黄色の5色刷。裏面は黒、赤の2色刷。





1: 大正4~9(1915~20)年



2: 昭和3(1928)年頃



3: 昭和4(1929)年頃



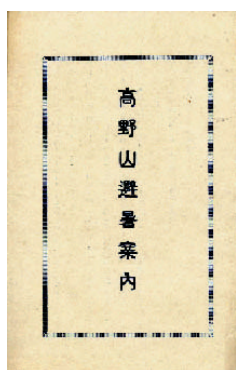
4: 昭和5(1930)年頃



5: 昭和5(1930)年7~10月



6: 昭和5(1930)年後半



7: 昭和6(1931)年初夏



8: 昭和5, 6(1930, 31)年末



9: 昭和6(1929)年春



10: 昭和6(1931)年春



11: 昭和6(1931)年秋



12: 昭和7(1932)年春



13: 昭和7(1932)年前半



14: 昭和7(1931)年



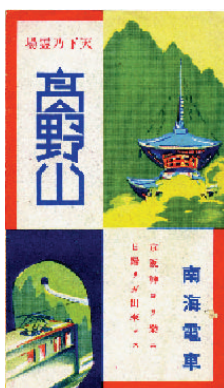
15: 昭和7(1931)年前半



16: 昭和7(1932)年



17: 昭和7(1932)年



18: 昭和8(1933)年



19: 昭和8(1933)年



[内容] 表面両脇1/4が写真で各3枚のモノクロ写真を配し、右端頁に運賃、距離、所要時間の表を置く。左から2列目の2/4が表紙で、4分割し右上に山並と多宝塔、左下にトンネルと電車の図柄を配し、左上にタイトルの「天下乃霊場／高野山」、右下に「南海電車／京阪神ヨリ楽ニ／日帰りガ出来マス」の文字が入り、3/4には「南海沿線案内略図」が記される。裏面は前項に準じる。

[発行年代] 内容的には前項と同じため、この資料も昭和7(1932)年4月から11月の間の印刷と判断できる。

#### 18) 天下之霊場高野山／南海電車／昭和8(1933)年

[体裁] 縦152mm×横349mmの四ツ折り。表面は群青、朱、水色、緑、黄色の5色刷。裏面は黒、赤の2色刷。

[内容] 表面両脇1/4が写真で各3枚、合計6枚のモノクロ写真を配し、右端頁に運賃、距離、所要時間の表が配される。左から2列目の2/4が表紙で、4分割し右上に山並と多宝塔、左下にトンネルと電車の図柄を配し、左上にタイトルの「天下乃霊場／高野山」、右下に「南海電車／京阪神ヨリ楽ニ／日帰りガ出来マス」の文字が入る。右から2列目の3/4には「南海沿線案内略図」が記される。裏面は前項に準じる。

[発行年代] 「南海沿線案内略図」による現紀勢本線開通が南部駅までに留まる点は前項同様で、これを根拠にすれば昭和7(1932)年11月が下限となる。但し、以下の2点が前記資料と異なる。

- 1 霊宝館の開館が前項では5、8、10月であるが、本項では5、8、11月。
- 2 「高野山参詣案内図」「三宝荒神」の記載が本項の方が詳しい。  
霊宝館の開館時期は、他の資料によれば昭和8(1933)年以後、11月となるため、本資料の印刷は昭和8(1933)年初頭と言える。

#### 19) 天下之霊場高野山／南海電車／昭和8(1933)年

[体裁] 縦154mm×横348mmの四ツ折り。表面は黒、朱、紫、黄色の4色刷。裏面は黒、赤の2色刷。

[内容] 表面左より1/4にモノクロ写真3枚を配する。左から2列目の2/4が表紙で、雲間に多宝塔を見下ろした図柄を背景に上部に「天下乃霊場」、中央部に「高野山」、下部に「南海電車」の文字を右からの横書きとする。3/4には「南海沿線案内略図」、右端の4/4には上下に2枚のモノクロ写真、中央に右から「霊宝館拝観料」「霊宝館開館時間」「運賃」「距離」「所要時間」の表、欄外に「御問合」先として、南海難波案内所の電話番号を記す。裏面は前項に準じる。

[発行年代] 「南海沿線案内略図」で現紀勢本線が田辺駅まで延伸される。同駅の開業が昭和7(1932)年11月8日、以遠の紀伊富田への延伸が昭和8(1933)12月20日であることから、このパンフレットの印刷は昭和8(1933)年と考えるのが妥当であろう。

### 3 各資料の資料的価値

以上より、各資料の発行年代は大正時代中期から昭和8(1933)年とすることができた。さて、全ての資料は恐らく無料にて旅行会社、旅行案内所、駅頭などで配付されたものであり、70年以上の歳月を経て現在に至るまで残ること自体、極めて稀といって良い。資料としては厳密性をやや欠くものもあったが、全体的には制作者が広く伝えたい高野山を中心とする施設の概要とともに、当時の行楽地も明らかとなった。更に、同一制作者からの発信と言う点では、連続的な資料の存在は、年代毎の経年変化も見ることが可能である。このように、本資料群の価値は従来の資料には見られない独自の情報もあり、これらを用いて、歴史の行間に埋没した事象を拾い上げることも可能であるが、本稿ではその準備として資料発行年代の特定に終始し、資料を用いた分析作業は次稿以下に委ねたい。

### 謝辞

資料収集に当たり、泰成堂書店をはじめとする書肆からご便宜を頂いた。記して謝意を表したい。

#### 参考文献

- 1) 橋本の町と町家の研究会編：橋本の町と町家、2003年3月
- 2) 以下の考察には次の資料を用いた。南海電鉄経営企画室編纂：南海七十年の歩み、1957年10月。国鉄旅客局企画編集：日本国有鉄道停車場一覧、1980年9月。